



2019年9月10日

日本鉄道労働組合連合会

交運労協 第13次ロシア訪問団

ロシアの交通事情を学び働く仲間との連帯を深める

交運労協は8月24日から31日にかけて、自動車運輸道路建設労働組合・国際連合（略称：国際連合）との交流協定に基づく訪問団を派遣し、JR連合より荻山市朗会長と北村公次労働政策部長が参加した。この相互交流は1994年に開始され、今回が13回目の訪問となる。

モスクワでは市鉄労組、バスやトラックなどの労働者で組織するモスクワ州交通労組、旧ソ連邦各国の労組を代表する国際組織である全ロシア労働組合連盟（VKP）のそれぞれ委員長ら幹部と懇談したほか、モスクワ郊外のバス会社を訪問して労使関係や企業の課題などについて意見交換するなど、ロシアの交通運輸部門における労働実態を中心に学んだ。

ロシア鉄道をはじめ、JR連合加盟単組のように労使が経営課題を含め真摯な協議を重ねる建設的な労使関係を持つ企業が多くある一方、労組に敵対的な会社もあり、交通運輸労組の支部によっては組合員の権利と地位を守るため厳しく闘っているところもあるとのこと。

また、ソ連時代からの伝統もあり、育児支援の環境が整い労使ともに女性の活躍が進み、女性の社長や委員長など幹部が非常に多いことが印象的だった。

ロシアは隣国でありながら一般的には交流の機会の少ない国だが、非常に明るく親切で友好的な方々ばかりで、働く仲間との連帯を深める有意義な訪問となった。

